

## 編集後記

2020年から新型コロナウイルス感染拡大の影響がつづく中、2021年4月に神奈川大学言語研究センターは横浜キャンパスからみなとみらいキャンパスに移設されました。その後、言語研究センターは、横浜・みなとみらい・平塚の3キャンパスを跨ぐ種々の活動を展開してきました。こうして無事に『言語研究』第44号の発行を実現できたのも、所員の方々のご尽力によるものです。ご寄稿くださった執筆者の先生方、査読を引き受けてくださった先生方、多忙を極める状況にもかかわらず、『言語研究』刊行へ向けて積極的かつ献身的なご支持ご協力をいただき、誠にありがとうございました。今後も、所員各位の諸活動がますます発展するよう祈念いたします。

コロナ禍においては、教育も研究も、大小さまざまな制限を受けざるを得ないのが現状ですが、その一方で、オンラインミーティングツールの利活用によって、コロナ禍以前はさほど享受できなかった利便性を身近に感じられるようになりました。学内外の催し物はもちろん、国内外で開催される学術会議やワークショップにも、自宅や大学研究室から参加できるようになりました。時間の都合さえつければ、研究会のはしごも可能になり、自身の専門分野から見た隣接分野あるいは異分野の状況を知ることも可能になりました。禍を転じて福と為す可能性がひらかれたのではないのでしょうか。

『言語研究』第44号編集担当  
鈴木慶夏